

本の万華鏡

『都市の論理』

羽仁五郎著 — 勁草書房 一九六八年

推薦者 藤森 照信
(ふじもり・てるのぶ)

東京大学生産技術研究所教授、工学博士、建築家、建築史家。一九四六年長野生まれ。東北大学工学部卒業。東京大学大学院にて近代建築・都市計画史を専攻。全国各地で近代建築の調査・研究にあたる。一方、八六年赤瀬川原平氏らと、東京建築探偵団・路上観察学会」を結成し活動を行う。主な著書は、『路上観察学入門』（共著、筑摩書房）、『昭和住宅物語』、『新建築社』、『日本の近代建築』（岩波書店）、『奇想遺産 世界のふしぎ建築物語』（共著、新潮社）など。



もう覚えていない人も限られるが、私が大学生だった頃、

『都市の論理』

とこの本があった。書いたのは羽仁五郎。本の内容をおおまかにいって、都市といつもの

主人公は、行政でも企業でもなく、市民、それも自立した自由な市民であると主張する。

「これまで社会的な主張だが、この先が私たち建築関係者からならんでくる。」

そうした自由な市民を象徴するのが都市広場だといつのである。広場がない都市など

都市ではない。日本の広場は広場とは言えない。

都市、市民、広場。この三位一体を語り、当時の学生の心を打ったのだ。

で私も羽仁五郎の講演を聴きに行った。壇上上がった羽仁五郎は少なくとも私の近

辺にはないタイプの風貌で、銀髪の老人なのに、日本の伝統的の老人のような柔和さはなく、憤たような静けさもなく、

強い表情でもあり、そして何よりマッシュシヨンが歳に似合わず若く、オシャレだった。

壇上上がったまま語りはじめたのは、フレイレンスの市庁舎前の広場の光景だった。中心にはミテランジエロの像が立ち上っていて、おしよせる敵に向かい、今にも石だか円盤だかを投げつけようとしているその光景。その姿にぞくぞく、自由で

自立した当時のフレイレンスの市民の理想が込められている。

聴いている学生も市民も、イタリヤなど行ったこともないし、将来行けるとも思っていない。当時、外貨の不足から海外へ

行くのは制限されており、政府派遣の留学が商社の駐在員か外交官か、よつするに仕事でなければかなわぬ夢だった。

そんな聴衆に向かって羽仁五郎は、自分が見たフレイレンスの広場の光景を語るのだった。

もうその段階で、語り手と聴き手の勝負はついていて、何の疑いもはさみません。まるで天上からの声でも聞くように聞き

ほれたのだ。

あれから四〇年近くが過ぎた。その間、学生時代には行くなどと思ってもよらなからたフレイレンスの広場には何度も行った

し、自由で自立した市民の代表メネイチ家とは、確かにローマ教皇や王様の権力から自由で自立していたが、普通の市民に

対しては独裁者として君臨していた。少なくとも普通の市民ではなく、特権的な市民だった。

羽仁五郎は戦前の段階でイタリヤを訪れているが、考えてみれば、普通の市民のやることではない。できることではない。

特権的市民に他ならなからた。北関東を代表する繊維産業の子として生まれ育ち、自由学園創立者の羽仁家に入り……。

今はもう、情報や体験の落差を利用して発電するよつな言説は通用しなくなつた。都市、市民、広場の三位一体は、ま

だ海外旅行に誰も行けない頃の話である。

from editor's room

- 『日本文化としての公園』飯沼二郎、白幡洋三郎 八坂書房(1993年)
- 『こんな公園がほしい 住民がつくる公共空間』小野佐和子 築地書館(1997年)
- 『都市のり・デザイン 持続と再生のまちづくり』鳴海邦碩、角野幸博、沢木昌典、加藤恵正 学芸出版社(1999年)
- 『犬も歩けば赤岡町 日本で二番目に小さな町』高知県・赤岡町まちのホメ残し隊(2001年)
- 『芸術立国論』平田オリザ 集英社新書(2001年)
- 『環境と都市のデザイン 表層を超える試み・参加と景観の交点から』齋藤潮、土肥真人他 学芸出版社(2004年)
- 『都市公園政策形成史 協働型社会における緑とオープンスペースの原点』申龍徹 法政大学出版局(2004年)
- 『オープンスペースを魅力的にする 親まれる公共空間のためのハンドブック』プロジェクト・フォー・パブリックスペース 加藤源他訳 学芸出版社(2005年)
- 『希望の美術・協働の夢 北川フラムの40年 1965-2004』北川フラム 角川学芸出版(2005年)
- 『オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動 その思想と活動』中島直子 古今書院(2005年)

- 『都市の水辺をデザインする グラウンドスケープデザイン群団奮闘記』篠原修編 彰国社(2005年)
- 『環境と空間文化 建築・都市デザインのモチベーション』中村良夫 学芸出版社(2005年)
- 『緑地・公共空間と都市建築』日本建築学会編 日本建築学会(2006年)
- 『新しい公共空間のデザイン NPO・企業・大学・地方政府のパートナーシップの構築』吉田民雄、杉山知子、横山恵子 東海大学出版会(2006年)
- 『村落共有空間の観光的利用』池俊介 風間書房(2006年)
- 『路地からのまちづくり』西村幸夫 学芸出版社(2006年)
- 『マンヒスティック・ランドスケープ 獲得される場所をめざして』LANDSCAPE EXPLORER 学芸出版社(2006年)
- 『公共空間の活用と賑わいまちづくり オープンカフェ / 朝市 / 屋台 / イベント』都市づくりパブリックデザインセンター編 学芸出版社(2007年)
- 『二見恵美子のランドスケープスタイル』二見恵美子 パールバック(2007年)
- 『公共空間の政治理論』篠原雅文 人文書院(2007年)
- 『中心市街地の創造力』宗田好史 学芸出版社(2007年)
- 『コンパクトシティの計画とデザイン』海道清信 学芸出版社(2007年)